

研究論文

カナダ・ブロック大学大学院における M.Ed.プログラムの制度設計と諸特徴

平田 淳*

The Institutional Design and Characteristics of the Master of Education Program of Brock University in Canada

Jun HIRATA

【要約】ブロック大学大学院の M.Ed.プログラムは3つの専門領域から構成されており、学生はいずれかの専門領域に所属することとなる。また学生は、授業の習得のみが求められるコース・パスウェイか、学位論文の執筆が求められる学位論文パスウェイ・オプション、あるいは学位論文よりはコンパクトなメジャー・リサーチ・ペーパーの執筆が求められる MRP パスウェイ・オプションのいずれかに従って学位取得を目指すこととされている。

【キーワード】教育専門職向け学位プログラム, M.Ed.

1. ブロック大学の概要

(1) 創設から今日までの歴史

ブロック大学 (Brock University) は、カナダの首都オタワやカナダ最大の都市トロントを擁するオンタリオ州のセント・キャサリンズ (St. Catharines) にメイン・キャンパスをもつ総合大学である。近くには「世界三大瀑布」の1つであり、観光地としても有名なナイアガラの滝 (Niagara Falls) がある。セント・キャサリンズの他にも、ハミルトン (Hamilton) やオークビル (Oakville) にもキャンパスがある。

ブロック大学が創設されたのは戦後であり、比較的新しい大学である。1950年代後半、ナイアガラ地方ではどうすれば当地に大学を創設できるかの議論が高まっていった。それはナイアガラ地方の住民が、この地方を去ることなしに若い人々が良い教育を受けることを願っていたからである。そうした草の根の感情は、1957年11月にアランバーグ女子大学 (Allanburg Women's Institute)¹がオンタリオ州政府に対しナイアガラ地方への大学の設置を前向きに検討してほしい旨依頼した時に1つの運動となった。そして1962年秋までにブロック大学設置者委員会 (Brock Founders Committee) が設置された。ブロック大学設置者委員会は新大学創設の承認を得て、その後経営プランと学術プランを策定し、資金調達活動を開始した。数年にわたる議論と資金調達活動の後、ブロック大学はオンタリオ州の制定法である「ブロック大学法 (Brock University Act, Statute of Ontario, 1964, Chapter 127, as amended by 1971, Chapter 107) によって1964年9月に開学した。セント・キャサリンズのナイアガラの断崖の麓にあった冷蔵工場を新しくしたクラスに出席したのは、127名の学生であった。1966年、ランドマークであるブロック・タワーが完成し、大学はナイアガラ断崖の頂上にある大学の恒常的な本部へと丘を登って移転し始めた。

¹ アランバーグ女子大学について、詳しくは次のウェブサイトを参照されたい。 <https://brocku.ca/brock-news/tag/allanburg-womens-institute/>. (2018年5月23日採取)

*佐賀大学大学院学校教育学研究科

その後 30 年の間に、ブロック大学は何千名もの卒業生を輩出し、気配りの行き届いた教員による個人指導や調節された学級規模のために名を成した。新しい世紀が幕を開けたとき、入学者数が一気に増加し、ブロック大学は学部教育から優れた研究や大学院・博士課程教育へと転換した。キャンパスはブロック大学の教育に対する需要の増加に合わせて安定的に拡大していき、文化的、学術的、レクリエーションの中心として、優れた施設を以前ブロック大学を創設した人々にもたらすことで貢献している。²

ブロック大学という名称は、19 世紀初頭の米英戦争時、イギリス軍の少将としてアッパー・カナダ (Upper Canada)³ のイギリス軍を率いてアメリカ軍を撃退した英雄であり、当地の行政官でもあったアイザック・ブロック卿 (Major-General Sir Isaac Brock) にちなんで付けられた。ブロック卿は 1812 年にナイアガラに攻め込んできたアメリカ軍との戦いで命を落としたが、彼の遺体を埋葬したモニュメントがナイアガラの滝近くのクィーンストン・ハイツ公園 (Queenston Heights Park) に建てられている。大学の名称にブロック卿の名前がつけられたのは、彼が「アッパー・カナダの英雄」であるというだけでなく、中流階級家庭の 8 番目の男子として生まれ、フォーマルな形での教育経験は少ないものの自己教育に熱心であったこと、特に読書を好み、それは軍事戦術書から科学・古代史にまで至り、彼が戦死するときには小さな図書館を所有しており、蔵書はシェークスピアからヴォルテール (Voltaire, 啓蒙主義を代表する 18 世紀フランスの哲学者)、サミュエル・ジョンソン (Samuel Johnson, 18 世紀イングランドの文学者) など多様であったことなどにもよる。⁴

現在のブロック大学は、応用保健科学部 (Faculty of Applied Health Sciences)、教育学部 (Faculty of Education)、人文学部 (Faculty of Humanities)、数理学部 (Faculty of Mathematics and Science)、社会科学部 (Faculty of Social Sciences)、大学院学部 (Faculty of Graduate Studies)⁵、グッドマン・ビジネススクール (Goodman School of Business) の 6 学部・大学院から構成されている。2016 年 11 月 1 日時点の在籍学生数は、学部生 17,014 名、大学院生 1,690 名、合計 18,704 名であり、そのうち留学生は学部生が 1,324 名、大学院生が 595 名、合計 1,913 名で、全学生の約 17% を占めている。留学生のうち 76% はアジア系である。教員数は 588 名となっている。⁶

2. M.Ed.プログラムの概要

(1) ブロック大学教育学部及び M.Ed.プログラム設置の背景と現在

ブロック大学が 1964 年にセント・キャサリンズに開学したことは上述したが、その教育学部はブロック大学とオンタリオ州教育省の特別な調整を通して、1965 年にセント・キャサリンズ・ティーチャーズ・カレッジ (St. Catharines Teachers' College) としてその運営が始まった。セント・キャサリンズ・ティーチャーズ・カレッジはその後、1971 年にブロック大学に統合されたときに教育カレッジ (College of Education) となった。その時に、教員養成プログラムに加えて、カレッジは現職教員に対する追加資格

² 当該段落は、次のウェブサイト参照した。<https://brocku.ca/about/history/> (2018 年 5 月 22 日採取)。

³ 公的には 1791 年の立憲条令 (Constitutional Act, カナダ法) 制定時から 1840 年に制定された連合法 (Act of Union of Upper Canada and Lower Canada) が翌 1841 年に施行されるまで使われた地名で、現在のオンタリオ州にあたる地域を指す。詳しくは (平田, 2017) を参照されたい。

⁴ 当該段落は、次のウェブサイト参照した。<https://brocku.ca/about/maj-gen-sir-isaac-brock/> (2018 年 5 月 22 日採取)。

⁵ カナダの大学では、組織図上は大学院学部もその他の学部同様独立した学部のような存在として位置づけられているが、その職務は主に入学や卒業に関する運営上の実務であり、教育・研究内容に関わることは各学部内に設置されている大学院担当部署が担当する。ブロック大学でも、大学院学部はその他 6 つの学部の大学院実務を一括して管理している。

⁶ 本段落は、次のウェブサイト参照した。<https://brocku.ca/institutional-analysis/wp-content/uploads/sites/90/2016-2017-Brock-Facts.pdf> (2018 年 5 月 26 日採取)。

コース (Additional Qualification Course)⁷も開講することとなった。1976年春にカレッジで最初の修士号が授与され、1989年には教育カレッジは教育学部 (Faculty of Education) として知られるようになった。

教育学部の前身であるセント・キャサリズ・ティーチャーズ・カレッジが教育カレッジとしてブロック大学に統合されてから47年、そして最初の修士号が授与されてから42年が経つ現在までのM.Ed.取得者数の累計は5,183名であり、これはこれまでの全大学院学位取得者数累計の11,179名の約46%を占めている。2015-2016年度に限定するとM.Ed.取得者は124名であり、全体での学位取得者数707名の17.5%と割合としては減少しているが、大学院学位が9種類あることを考えると、それでも比較的大きな割合を占めていると言えよう。⁸

(2) 組織運営体制

図1はブロック大学教育学部の組織図である。図1の真中にある青色系統の最上部に、ブロック大学の2つある管理機関の1つである理事会 (Board of Trustees)⁹によって任命された学術担当副学長 (Provost & Vice-President, Academics) から教育学部長 (Dean of Education) にラインがつながっており、ここから各部署に系統が分けられている。左側の緑色の系統は学生サービス (Student Services) やコンピュータ・サービス (Computer Services)、カリキュラム・コーディネーター (Curriculum Coordinator) や学術アドバイザー (Academic Advisors) など、主に学生支援を担当する部署である。真中の青色の系統は「教員養成学科 (Department of Teacher Education)」や大学院関連の部署に連なっている、主に教育を担当する系統であり、学部長と同色で系統づけられていることから、教育学部の中心的機能を担っていることがわかる。右側のオレンジで示されているのは、調査研究関連の系統となっている。M.Ed.プログラムは青系統のライン右端にある「大学院・学部教育学科 (Department of Graduate and Undergraduate Studies)」の右端に位置づけられる部署で散見され、例えばM.Ed.プログラムの管理アシスタント (Administrative Assistant, M.Ed.) はこのラインに位置づけられているし、特にブロック大学M.Ed.プログラムの3つの専門領域それぞれを担当するコーディネーターの部署として、「教育における社会的文化的コンテクスト領域コーディネーター (Coordinator, M.Ed. Social Cultural FOS)」や「教育経営リーダーシップ領域コーディネーター (Coordinator, Administration & Leadership FOS)」、「教育・学習・発達領域コーディネーター (Coordinator, Teaching, Learning, Devt. FOS)」などがこのラインに位置づけられている。この「大学院・

⁷ 追加資格コースとは、教員採用時に取得している資格に、採用後資格を追加するために受講するコースである。例えばオンタリオ州では、教員免許は12学年を4つのディビジョンに分けて設定されており、それぞれプライマリー (primary, K-3)、ジュニア (junior, 4-6)、インターミディエイト (intermediate, 7-9)、シニア (senior, 10-12) となっている。通常はプライマリー&ジュニア (PJ)、ジュニア&インターミディエイト (JI)、インターミディエイト&シニア (IS) というように、隣り合う2つのディビジョンで免許を取得する。例えばPJの資格をもって採用された場合、その時点ではK-6年生までのみ教えることができるが、大学等で提供される追加資格コースを修めることによってインターミディエイトの資格を取得すれば、K-9年生まで教えることができるようになる。保有する追加資格の数は給与や昇進にも関わってくる (平田・成島・坂本, 2003)。なお、カナダでは学校段階で学年を区切らずに通しでカウントするのが一般的である。つまり、7年生とは日本での中学1年生、11年生は高校2年生に相当する。

⁸ 本段落は、次のウェブサイトを参照した。<https://brocku.ca/institutional-analysis/wp-content/uploads/sites/90/2016-2017-Brock-Facts.pdf> (2018年5月26日採取)。

⁹ ブロック大学では大学運営において二院制を採用しており、一方が理事会、もう一方が評議会 (Senate) である。両者ともに形式上の経営トップである総長 (Chancellor) や事実上のCEOである学長 (President and Vice-Chancellor) 等の職務上の委員に加えて、その他の任命委員や公選委員によって構成される。これは大学運営の透明性や民主性を確保するための大学運営形態であり、カナダの大学では一般的であるが、特に学長への権限一極集中や教授会の完全無力化が推し進められている近年の日本の旧地方国立大学の運営組織構造との違いは明白である。現在の日本の大学運営の実態については、(山口, 2017) や (藤本, 2017) に詳しい。

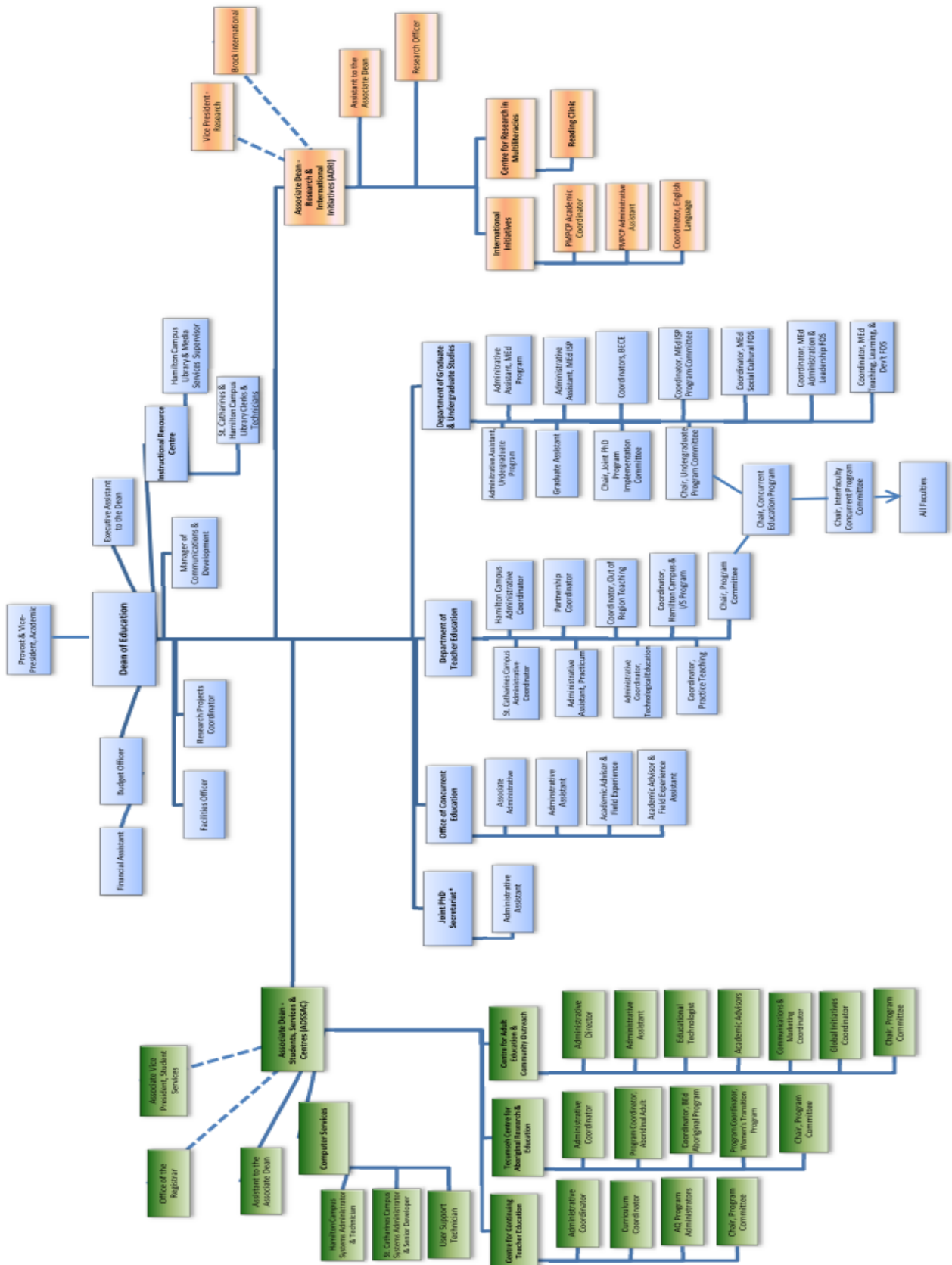


図 1 ブロック大学教育学部組織図 (全体)

出典：ブロック大学ウェブサイト <https://brocku.ca/education/wp-content/uploads/sites/12/FOE-Organization-Chart-October-2014-No-names.pdf> (2018年5月25日採取, 2019年1月時点では削除されている)

学部教育学科」には学部教育を担当する部署や Ph.D. など大学院の他の学位プログラムを担当する部署も位置づけられており、M.Ed. プログラムを担当する部署と同列になっている。つまり、専門職学位プログラムであっても従来の学部教育やその他の大学院学位教育と同じ組織で一体的に管理運営されているということであり、M.Ed. プログラムは教育学部の一部を構成するものと位置づけられていることになる。なお、この組織図が作成・ウェブサイト上にアップされたのは 2014 年であるが、2018 年 9 月に筆者が実施した現地調査において、組織図上の青系統ラインにある「教員養成学科」「大学院・学部教育学科」「併行教員養成学科 (Office of Concurrent Education)」¹⁰の 3 学科は「教育学科 (Department of Educational Studies)」という形で統合されたという情報を得た。つまり、レイクヘッド大学 (Lakehead University) やウィンザー大学 (University of Windsor) との連合大学院学位を管轄する「連合 Ph. D. 事務局 (Joint Ph. D. Secretariat)」を別にすると (連合する他大学との共同運営であるため)、1 学部 1 学科体制に再編されたということである。但し、M.Ed. プログラムも教育学部の 1 プログラムとして位置づけられているということに変化はない。

M.Ed. プログラムを担当する教員はコア教員 (Core Faculty) と協力教員 (Participating Faculty) に分けられている。コア教員は教授 (professors) が 16 名、准教授 (associate professors) が 28 名、助教授 (assistant professors) が 3 名、計 47 名であり、協力教員は名誉教授 (professors emeriti) が 4 名、教授が 4 名、准教授が 5 名、計 13 名となっている。リストには挙がっていないが、教育学部長が 1 名いるため、総勢 61 名の教員が担当していることになる。¹¹

(3) プログラム・パスウェイ・オプションと専門領域

ブロック大学ウェブサイトにおいては M.Ed. プログラムの概要について、次のように説明している。

M.Ed. プログラムは学生に対して教育に影響を及ぼしてきた理論的視点に関する包括的理解と、調査に関する基本的な理解を提供する。学生は次の 3 つの専門領域のいずれか 1 つに申請することになる。すなわち、教育の社会的文化的コンテクスト、教育・学習・発達、教育経営とリーダーシップ、である。各専門領域は必修コア科目と選択科目から構成されているが、必修コア科目の数は専門領域によって、あるいは選択したパスウェイによって異なる。学生はリサーチ・パスウェイかコース・パスウェイのいずれかから選んでプログラムを修了することになる。リサーチ・パスウェイには、フルタイムの奨学金を受けられる学生を受け入れるスペースは限定的である。学位論文を書くかメジャー・リサーチ・ペーパーを書くかの決定はフルタイムの学生にとっては秋学期終了後、パートタイムの学生にとってはコースワークを修了した後になされることになる。授業はセント・キャサリンズ及びブロック大学ハミルトン・キャンパス、オークビルのシェリドン・カレッジで受講することができる。M.Ed. プログラムは批判的省察、学識的探究、知識豊かな教育実践に従事する学生の能力を高めるよう意図されている。卒

¹⁰ オンタリオ州に限らずカナダにおいては、従来は教員免許を取得する前に各専門学部 (理工学部など) において学士号を取得する必要があり、その後に教育学部に進学するのが一般的であったが、現在では大学によっては学士課程在学中に教員資格取得が可能なプログラムもある (平田・成島・坂本, 2003)。前者を連続プログラム (consecutive programs) と呼び、後者を併行プログラム (concurrent programs) と呼ぶ。但し、前後者いずれにせよ教員資格取得までは、2015 年以前入学者は通常 5 年、2015 年以降は通常 6 年かかる。この違いが生じたのは、2015 年から教員養成期間が 1 年から 2 年に延長されたためである。2015 年以降の教員資格取得プロセスについて、詳しくは (Ontario College of Teachers, n. d.) を参照されたい。

¹¹ 本段落は、次のウェブサイトを参照した。 <https://brocku.ca/webcal/current/graduate/educ.html> (2018 年 5 月 14 日採取)。

業生は高等教育，成人教育，専門性開発サービス，健康関連領域での職を得るための資格証明書を得るか，博士課程に進学する。フルタイム及びパートタイムの双方が可能である。¹²

① プログラム・パスウェイ・オプション

学位取得までの道のりとして，学生はコース・パスウェイ (Course Pathway) カリサーチ・パスウェイ (Research Pathway) かのいずれかに従ってプログラムを修了するという選択肢を有している。また，リサーチ・パスウェイの学生はメジャー・リサーチ・ペーパー・オプション (Major Research Paper (MRP) Option)¹³か学位論文オプション (Thesis Option) かのいずれを修了することによって学位取得を目指すかを選択することができる。リサーチ・パスウェイのフルタイム学生は，秋学期を成功裏に修了した後に学位論文か MRP かの決定をすることになる。このためには，学生は MRP 修了申請書あるいは学位論文修了申請書と 250 字のリサーチ・プランを，コースワークを完了した後に提出しなければならない。修了に必要な授業科目や単位はパスウェイ・オプションによって異なっており，「コース・パスウェイ・オプション」ではすべての学生は，半単位科目 (half-credit courses)¹⁴ 9 つに加えて，「EDUC 5Q97: Culminating Seminar」(授業科目の内容については後述) を習得しなければならない。「リサーチ・パスウェイ-MRP オプション」を選択した学生はすべて，半単位科目 7 つに加えて，「EDUC 5D91: Major Research Paper」を習得しなければならない。「リサーチ・パスウェイ-学位論文オプション」の学生は，すべて半単位科目 5 つと「EDUC 5K95: Thesis Tutorial, EDUC 5P92: Introduction to Educational Research」を習得しなければならない。また，フルタイム学生のすべては，秋学期のみ開講される単位認定のない科目である「EDUC 5N99: Graduate Seminar in Education」を履修しなければならない。

各専門領域は習得すべきコア科目や選択科目の数について異なる要件を課しているため，学生は上述の専門領域情報を参照して，いずれかを選ぶことになる。学生が自らの専門領域で要求されている数の必修科目を習得する限り，残りの選択科目は専門領域を跨って履修することができる。¹⁵

フルタイム学生が修了するまでの期間は上限で 3 年であるが，それより早く修了することもできる。またフルタイム学生は 1 学期に最低 1 コース (授業) は履修しなければならず，4 コースまで履修可能である。フルタイム学生の最短修了期間は，コース・パスウェイのフルタイム学生が 3 学期 (1 年)，リサーチ・パスウェイの MRP オプションは 4 学期 (16 カ月)，リサーチ・パスウェイの学位論文オプションは 6 学期 (2 年) である。1 年で修了するためには，コース・パスウェイのフルタイム学生は秋学期と冬学期で 4 コースずつ，春学期で 2 コースを習得しなければならない。MRP オプションの学生が 16 カ月で修了するためには，秋学期に 4 コース，冬学期に 3 コースずつ習得し，春学期に MRP 執筆のための作業を始めなければならない。パートタイム学生の修了までの期間は上限で 5 年間であり，1 学期に 1 単位は履修しなければならないが，履修上限は 2 コースである。¹⁶

¹² 以下の URL から採取した。<https://brocku.ca/nextstep/programs/master-of-education/> (2018.5.14.)。ウェブサイトから採取したものであり，直截引用ではあるが頁の特定は不可能であるため，記載していない。以下，頁の特定の無い直接引用箇所は，同様の理由による。

¹³ MRP はいわゆる「レポート」ではあるが，通常の学期末レポートよりも内容的に深く，また量的にも多い記述が求められる反面，学位論文ほど高度なものは求められないといった種類の課題である。

¹⁴ ブロック大学関係者によると，ブロック大学では 12 回 (12 週) で構成される 1 つの授業が通常半単位となっている。ゆえに，ここで述べられている半単位科目 9 つに 1 つの必修科目を取ることによって，10 の授業から 5 単位を得る，ということになる。ちなみに，日本では通常 1 授業は 15 回で構成されるが，カナダの大学院では 1 授業 12 回というのが一般的である。但し，授業時間は一回につき 3 時間である。

¹⁵ 本節当該箇所までの記述は，次のウェブサイトを参照した。<https://brocku.ca/nextstep/programs/master-of-education/> (2018 年 5 月 14 日採取.)。

¹⁶ 本段落の記述は，次のウェブサイトを参照した。<https://brocku.ca/education/programs/graduate-programs/master->

② 専門領域 (Field of Specialization: FOS)

専門領域については、学生は申請時に次の3つの専門領域の1つを選択することになっている。すなわち、「教育の社会的文化的コンテキスト (Social and Cultural Context in Education: SCCE)」、「教育・学習・発達 (Teaching, Learning, Development: TLD)」、「教育経営とリーダーシップ (Administration and Leadership in Education: ALE)」である。各専門領域ともに必修コア科目と選択科目があり、必修科目数は専門領域やパスウェイによって異なる。表1は各専門領域とパスウェイ・オプションごとの修了要件一覧であり、図2から4は各専門領域における修了までのコース履修・習得のフローチャートである。

表1 各専門領域及びパスウェイ・オプションごとの修了要件

Fields of Specialization (FOS)	Pathway Options		
	Course-Based	Research Based	
		Major Research Paper	Thesis
Administration & Leadership in Education (ALE)	Required Courses EDUC 5P60, EDUC 5P62 EDUC 5P92 <i>Minimum three electives in ALE (range from 5*63-5*79)</i> Three electives (any FOS or general course) EDUC 5Q97 (Culminating seminar-i.e., taken as the last course, or with one other course) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)	Required Courses EDUC 5P60, EDUC 5P62 EDUC 5P92 <i>Minimum two electives in ALE (range from 5*63-5*79)</i> Two electives (any FOS or general course) EDUC 5D91 (MRP) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)	Required Courses EDUC 5P60, EDUC 5P62 EDUC 5P92 <i>Minimum one elective in ALE (range from 5*63-5*79)</i> One elective (any FOS or general course) EDUC 5K95 (thesis) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)
Social & Cultural Contexts in Education (SCC)	Required Courses EDUC 5P00, EDUC 5P01 EDUC 5P92 <i>Minimum three electives in SCC (range from 5*02-5*29)</i> Three electives (any FOS or general course) EDUC 5Q97 (Culminating seminar-i.e., taken as the last course, or with one other course) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)	Required Courses EDUC 5P00, EDUC 5P01 EDUC 5P92 <i>Minimum two electives in SCC (range from 5*02-5*29)</i> Two electives (any FOS or general course) EDUC 5D91 (MRP) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)	Required Courses EDUC 5P00, EDUC 5P01 EDUC 5P92 <i>Minimum one elective in SCC (range from 5*02-5*29)</i> One elective (any FOS or general course) EDUC 5K95 (thesis) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)
Teaching Learning & Development (TLD)	Required Courses EDUC 5P30 EDUC 5P92 <i>Minimum three electives in TLD (range from 5*31-5*59)</i> Four electives (any FOS or general course) EDUC 5Q97 (Culminating seminar-i.e., taken as the last course, or with one other course) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)	Required Courses EDUC 5P30 EDUC 5P92 <i>Minimum three electives in TLD (range from 5*31-5*59)</i> Two electives (any FOS or general course) EDUC 5D91 (MRP) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)	Required Courses EDUC 5P30 EDUC 5P92 <i>Minimum two electives in TLD (range from 5*31-5*59)</i> One elective (any FOS or general course) EDUC 5K95 (thesis) EDUC 5N99: non-credit Graduate Seminar (Required for all full time students)

Override provided for all full time students to enroll in EDUC 5N99: Non-credit Graduate Seminar, during the fall term

出典：<https://brocku.ca/education/wp-content/uploads/sites/12/MEd-Pathways-degree-requirements-chart.pdf> (2018年5月22日採取)。

・「教育の社会的文化的コンテキスト (SCCE)」領域¹⁷

当該専門領域においては、学生は地域的及び地球規模の教育経験やカリキュラム、教授法実践に影響を及ぼす社会正義に関わる事項について学ぶ。学生は2つの必修コア科目を習得する必要がある。すな

[of-education/#time-to-completion](#) (2018年11月22日採取)。

¹⁷ 図2-4の出典はすべて次の通り。<https://brocku.ca/education/wp-content/uploads/sites/12/MEd-Field-of-Specialization-Pathways-Flow-Chart-2017-18.pdf> (2018年5月20日採取)。

わち、「パート1：基礎準備 (EDUC 5P00: Part I: Preparing the Ground)」と「批判的言説の開発 (EDUC 5P01: Developing a Critical Language)」(授業の概要はすべて後述)である。コース・オプションの学生は、その他に当該領域の選択科目を3つ、MRP オプションの学生は選択科目2つ、学位論文オプションの学生は選択科目1つを習得しなければならない。当該領域の選択科目はすべて番号順に EDUC 5P02 から EDUC 5P29 までとされている。V コース (EDUC 5V01-5V18 など) は当該領域の選択科目として履修可能な特論選択科目である。コース・パスウェイの学生は独立学習 (EDUC 5P98) とインターンシップ (EDUC 5P96) の双方を履修できる。MRP パスウェイか学位論文パスウェイの学生は EDUC 5P98 か EDUC 5P96 のどちらかを履修することはできるが、両方履修することはできない。またその他にリサーチ・ベースの科目を取らなければならない。EDUC 5N99 は無単位の卒業演習であるが、全てのフルタイム学生は習得しなければならない (TLD も ALE も同様)。

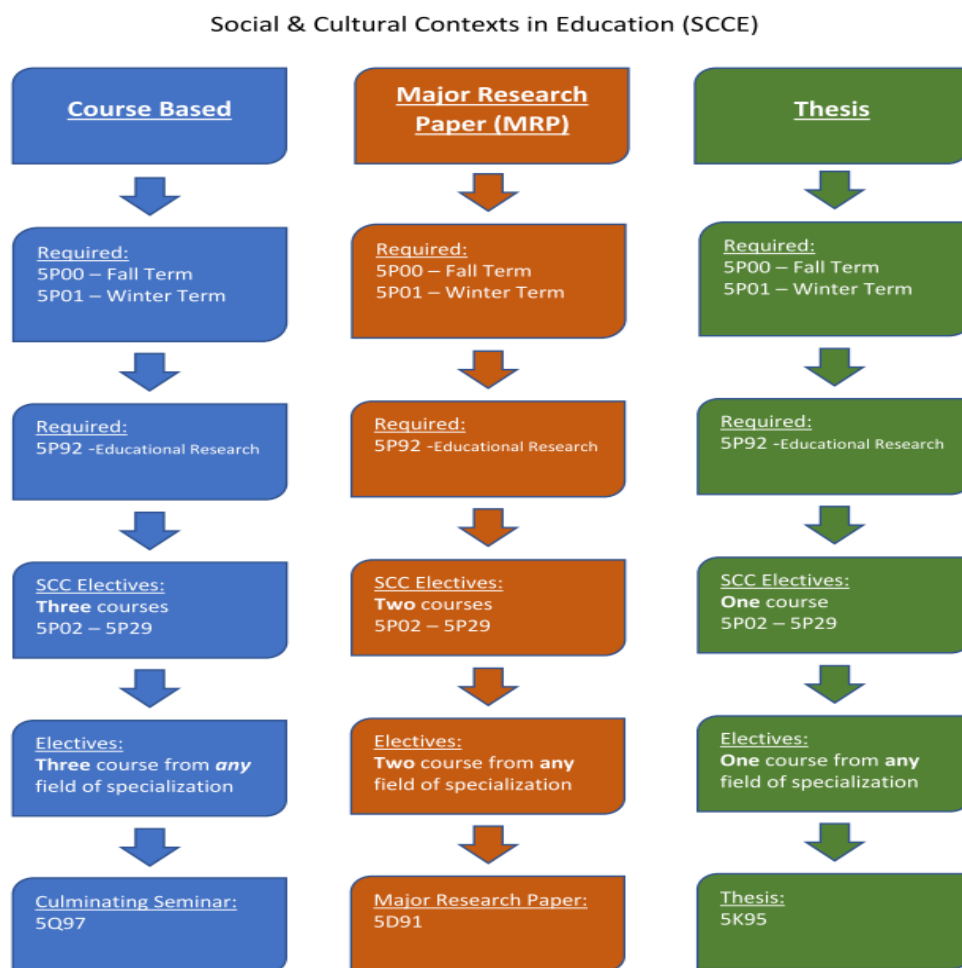


図 2 SCCE における修了までのフローチャート

・「教育・学習・発達 (TLD)」領域

当該領域は、生涯を通じた学習者の認知的、社会的、感情的、心理学的、行動的発達に関連する教育的及び教育学関連の理論と実践について考察する。学生は必修コア科目1つ「開発・学習・カリキュラム (EDUC 5P30: Development, Learning and Curriculum)」を習得しなければならない。コース・オプションと MRP オプションの学生は、その他に当該領域の選択科目を3つ、学位論文パスウェイ・オプションの学生は選択科目2つを習得しなければならない。当該領域のすべての選択科目は番号順に、EDUC

5P31 から EDUC 5P59 までである。V コース (EDUC 5V30-5V70 など) については、SCCE と同様である。コース・パスウェイとリサーチ MRP パスウェイの学生は独立学習 (EDUC 5P98) とインターンシップ (EDUC 5P96) の両方の科目を履修することができる。学位論文パスウェイの学生はどちらか一方しか履修できず、その他にリサーチ・ベースの科目をとらなければならない。

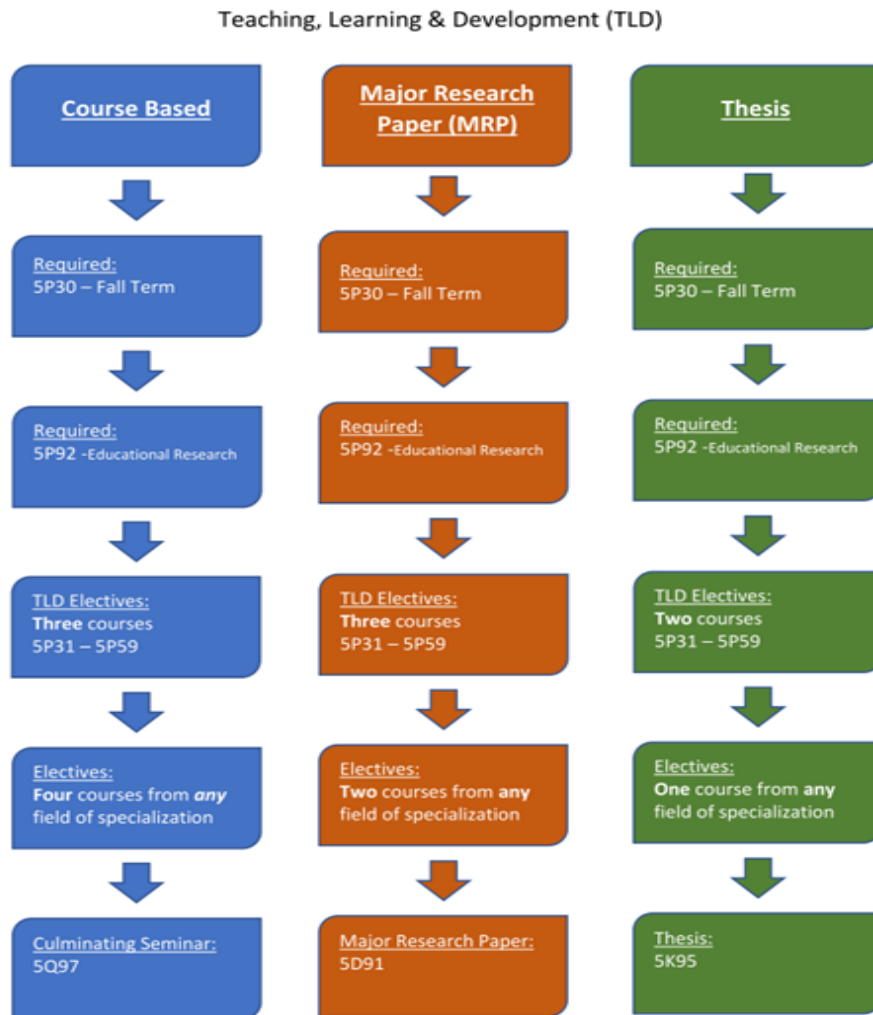


図 3 TLD における修了までのフローチャート

・「教育経営とリーダーシップ (ALE)」領域

当該領域の学生は、倫理的で人道的な教育機関を理解し、創設し、維持することや知識豊かな経営的アイデンティティを開発することを目的とした経営実践に影響を及ぼす理論を批判的に検討することになる。学生は当該領域の必修コア科目「組織の構築 (EDUC 5P60: Constructions of Organization)」及び「教育における政治・権力・政策 (EDUC 5P62: Politics, Power, and Policy in Education)」を習得しなければならない。その他に、コース・オプションの学生は当該領域の選択科目を3つ、MRP オプションの学生は同じく2つ、学位論文オプションの学生は1つ習得しなければならない。当該領域のすべての選択科目は、順番通りに EDUC 5P63 から EDUC 5P79 となっている。V コース (EDUC 5P77 など) については、SCCE・TLD と同様である。コース・パスウェイの学生は独立学習 (EDUC 5P98) とインターンシップ (EDUC 5P96) の双方を履修できる。MRP パスウェイと学位論文パスウェイの学生は EDUC 5P98

か EDUC 5P96 のどちらかを履修することはできるが、両方履修することはできない。またその他にリサーチ・ベースの科目を取らなければならない。¹⁸

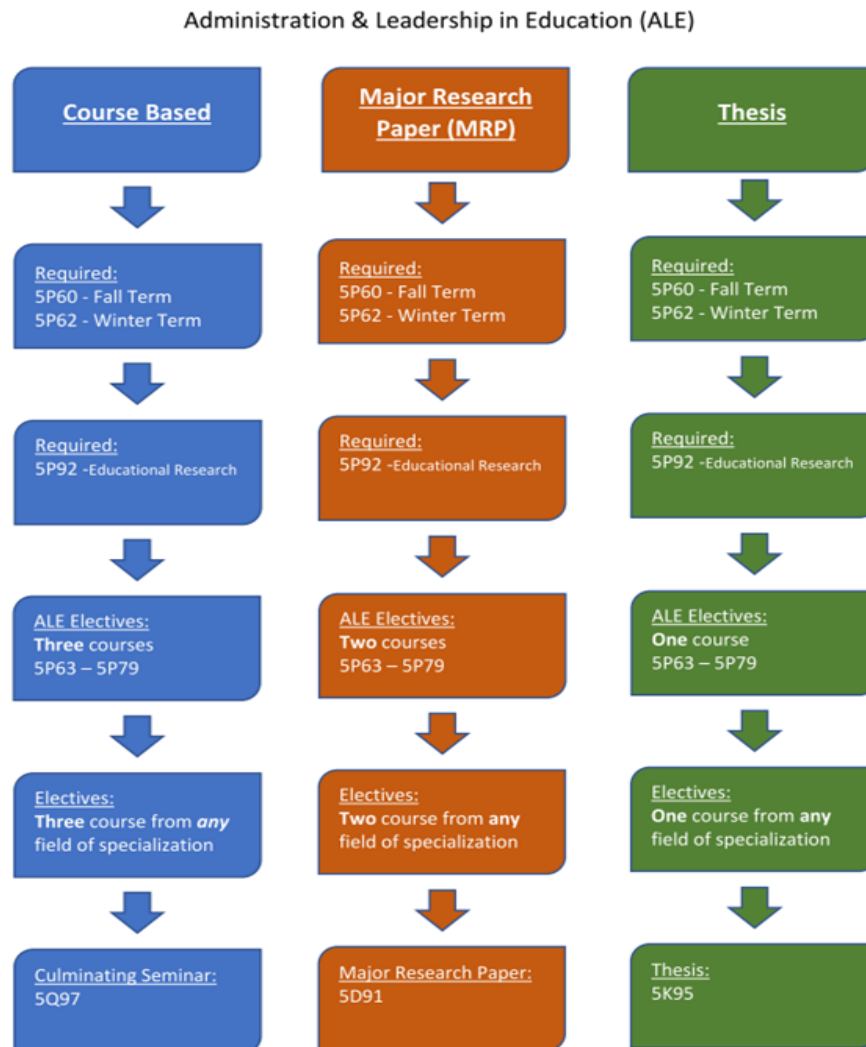


図 4 ALE における修了までのフローチャート

(4) 入学要件と申請手続き

入学要件として、申請者は通常、過去2年間のフルタイムでの学部授業において平均で最低でも75% (B+) ¹⁹の成績 (ブロック大学と同等) で、認可を受けた大学から4年間の学士の学位あるいはそれと同等のものを有していることが求められる。良好な教育あるいはその他の専門職経験は利点となる。英語が主要な教授言語である大学で学部卒の学位を修了していない申請者は、IELTS (International English Language Testing System, 日本語では「アイエルツ」と表記される) や TOEFL (Test of English as a Foreign Language, 「トフル」) での点数といった英語能力に関する証明書を提出しなければならない。²⁰

¹⁸ 本項の記述は、次のウェブサイト参照した。<https://brocku.ca/nextstep/programs/master-of-education/> (2018年5月14日採取)。

¹⁹ ブロック大学関係者によると、同大学のグレード・スケールは次のようになっている。90–100 (A+), 80–90 (A), 75–79 (B+), 70–74 (B), 60–69 (C), 50–59 (D)。CとDは卒業レベルに達していないと評価される。

²⁰ 本段落は、次のウェブサイト参照した。<https://brocku.ca/nextstep/programs/master-of-education/> (2018年5月)

実際の申請に際しては、次の4つのステップを踏むこととされている。ステップ1としては、まずオンライン申請を完了させ、申請費用を支払うことである。オンライン申請はブロック大学大学院入学申請用のオンライン申請ページからログインする必要があり、アカウントを所有していない場合は、そのページでアカウントを取得することができる。オンライン申請においては、フルタイムかパートタイムか、セント・キャサリズとオークビルのどちらのキャンパスを希望するか（一方をキャンパス1、他方をキャンパス2と設定する）、プログラムの種類（コース・ベースか、リサーチ・ベースか）、専門領域（第一・第二志望まで選択）について回答することになっている。申請費（返金不可）は M.Ed.の場合 130 カナダドルである。支払いはクレジットカード（VISA、マスターカードあるいはインターネット・バンキング）で、オンタリオ州大学申請センター（the Ontario Universities Application Centre: OUAC）に対して行う。オンライン申請は支払いがなされてから完了するため、申請費なしで申請が審査に進むことはない。ブロック大学が OUAC から申請者からの申請を受け取るには、1 - 2 営業日がかかる。大学が支払い済みの申請を受け取った場合、申請者には申請に必要とされる資料について E メールで通知される。この E メールによって、申請者にキャンパス ID（2 文字、2 数字、2 文字）と申請や申請資料のその時のステータスをモニターするための「ブロック・ポータル」へのログイン方法が通知される。

ステップ2としては、推薦書（Reference Report）の準備が挙げられている。すなわち、申請の一部として、推薦書の提出が求められるのである。申請するプログラムによって異なるが、M.ED.プログラムの場合、2名からの推薦書が必要となる。推薦者は学術関係者が好ましいが、職業関係者からのものでも可とされる場合がある。但し、職業関係者の場合は、大学院プログラムが推薦者として受け入れ可能と判断した場合に限定される。推薦書は、資格のある学術関係者からの、大学院での研究を行う被推薦者の能力について証明する文書でなければならない。推薦者が自分が書いた推薦書をアップロードするには、適当な研究機関・組織の E メールアドレス（gmail や Hotmail, yahoo などは認められない）が必要とされる。研究機関・組織につながっていない E メールアドレスは受け入れられない。推薦書は推薦者によってブロック大学の電子推薦書システムを通して提出されることとなっている。紙媒体の推薦書は受け付けられない。

推薦書は、次の指示に従って準備することとされている。

- ・ 推薦者が執筆可能であり、申請者のために推薦書を書く意思があることを確認すること。
- ・ 申請時に提出する推薦者の E メールアドレスが正確であることを確認すること。
- ・ 申請者が提供する推薦者に関するすべての情報が間違いなく正しいこと（申請書提出後に必要な場合は修正可。但し、スペル・ミスや E メールアドレスの変更は審査を大幅に遅らせることになる。）。
- ・ 大学院が申請を受け取ると、その旨推薦者に E メールで電子版推薦書が送られる。
- ・ 複数のプログラムにわたって同じ推薦者をリストに載せている場合、推薦者はプログラムごとに電子推薦書を別々に受け取ることになる。その旨、推薦者に周知しておくこと。
- ・ はじめの E メールが届いてから 10 日以内に推薦者からの推薦書が大学院に届かない場合、大学院から推薦者に自動的にリマインダー・E メールが送られる。
- ・ 申請者はブロック・ポータルを使って大学院が電子推薦書を受け取ったかどうかをモニターできる。

ステップ3としては、申請書類をアップロードすることが挙げられている。申請者はキャンパス ID を受け取ったら、自分のブロック・ポータル・アカウントを作動させ、必要な文書をアップロードすることができるようになる。必要な申請書類としては成績証明書、プログラム独自の申請資料の2つが挙げられている。成績証明書に関しては、申請者が在学した各中等後教育機関からの公的な成績証明書（も

月 14 日採取）。

し可能であれば学位記) をスキャンしたものをブロック・ポータルにアップロードする。これは、修了されなかった研究や無単位、交換単位コースを含む。証明書入手するためには、申請者は在籍した大学にコンタクトを取る必要がある。ブロック大学に在籍していた場合、大学院が申請者に代わって成績証明書をアップロードすることになる。もし成績証明書や学位記が英語でない場合、公的なオリジナルの言語による文書に有資格者によってなされた英語訳を添付しなければならない。成績証明書にはすべての単位、成績、グレード・スケール (80-100 など)、学位が記載されていなければならない。²¹ プログラム独自の申請資料に関しては、教育的背景や職業経験を詳細に記載した履歴書 (resume) と、500-800 語で書かれた、申請者の教育的・職業的なリーダーシップ経験、地域参加、当該プログラムに申請する理由 (職業的・学術的目標を含む)、専門領域に関連する研究関心等を記載した志望理由書 (Letter of Intent) などが例示されている。複数の専門領域に申請している場合は、各領域ごとに記載すること、リサーチ・パスウェイ (MRP・学位論文) 申請者の場合は、もしわかっている場合は研究領域も記載することとされている。²²

ステップ4としては、申請者が自分のキャンパス ID を使ってブロック・ポータル上で自分の申請や文書のステータスをモニターすることが挙げられている。²³

3. 授業概要

M.Ed.プログラムにおける授業は3つの専門領域それぞれの授業及び各コース共通の「総合コース (General Courses)」から構成されている。以下は、M.Ed.プログラムのウェブサイト²⁴で公開されている各授業内容の概要である。

(1) 「教育における社会的及び文化的コンテキスト」領域専攻

- **EDUC 5P00 パート1：基礎準備 (Part I: Preparing the Ground)**
教育実践に関する哲学的、社会学的、言語的 (literary) 柱に関する学際的な概観を行う。
注意：この授業において最低でも70% (B以上) の成績を納めなかった場合、当該プログラムを辞めなければならない。この授業の単位を修得することは「EDUC 5P01」を履修するために必要となっている。
- **EDUC 5P01 パート2：批判的言説の開発 (Part II: Developing a Critical Language)**
課題解決型アプローチを使った、実際の教育に関わる状況に対し理論的にアプローチする。
注意：この授業において最低でも70% (B以上) の成績を納めなかった場合、当該プログラムを辞めなければならない。
- **EDUC 5P07 グローバル教育における現代的課題 (Contemporary Issues in Global Education)**
現代的及び繰り返し生じる社会的、経済的、政治的、環境的問題をグローバル教育の枠組みの中で認識し、分析し、批判的に検討し、そうした課題が小学校や中等学校のカリキュラム及び指導実践に当てはまるのかについて、探究する。
- **EDUC 5P09 言語理論 (Theories of Literacy)**

²¹ 本項当該箇所までは、次の URL を参照した。<https://brocku.ca/nextstep/apply/> (2018年5月19日採取)。

²² 本段落は、次の URL を参照した。<https://brocku.ca/nextstep/programs/master-of-education/> (2018年5月14日採取)。

²³ 本項第二段落以降は、次のウェブサイトを参照した。<https://brocku.ca/nextstep/apply/> (2018年5月19日採取)。

²⁴ 授業概要は、次のウェブサイトを参照した。<https://brocku.ca/nextstep/programs/master-of-education/> (2018年5月14日採取)。

教育言説において継続的に議論されている言語指導を歴史的に分析する。

- ・ **EDUC 5P10 知識の集積地としての体系性：具現化とカリキュラムの探究 (The Body as a Site for Knowledge: Embodiment and Curriculum Inquiry)**

身体 (body) が政治的, 社会的, 文化的要因によってどのようにして刻み込まれるのかを理解するために, エンボディメント (embodiment, 身体化・具現化) に関する学識を検討し, 芸術ベースのカリキュラムと探究との関連において, 身体においてそして身体を通して知ることの方法について考察し, 研究者や教育者, 芸術家, 治療奉仕者, 保健実践家との関連性を探究する。
- ・ **EDUC 5P11 文化・アイデンティティと教授法: 生きたカリキュラムを前進させる (Culture, Identity, and Pedagogy: Advancing a Lived Curriculum)**

教員と児童生徒との関係における教育的コンテキストにおいてカリキュラムを実施することを検討し, 公平な教育的経験を支援する多文化的かつ反人種差別的枠組みや理論, 教授法を分析する。
- ・ **EDUC 5P13 教育の社会学的基礎 (Sociological Foundations of Education)**

学校, コミュニティと社会の関係を社会学的視点から分析し, 現在の教育的関心に関する理論的実践的観点について検討する。
- ・ **EDUC 5P14 戦争・ジェンダーと学習 (War, Gender and Learning)**

ジェンダーや戦争, 軍国主義が人間の学習プロセスと相互作用する方法や, 社会正義に関心をもつ教員にとって想定される含意について検討する。

注意: この科目の習得は以前に取得した成績及びEDUC 5V08で得た単位と入れ替えることとなる。
- ・ **EDUC 5P15 教育実践に関する個人的哲学の開発 (Developing a Personal Philosophy of Educational Practice)**

現代教育の根底にある概念や原理, 理想を批判的に分析する。その際, 擁護可能な教育哲学の発展のための教育的ビジョンと実践の間のつながりを強調する。
- ・ **EDUC 5P17 教育社会学及び教育におけるエクィティ研究の理論的志向性 (Theoretical Orientations in Sociology and Equity Studies in Education)**

カナダにおける多様なグループの社会的・経済的・政治的関心を提示する, 教育における社会学的研究の発展について分析し, 人種や階級, ジェンダーといった社会構造が我々の階層化された社会におけるヒエラルキーを生み出すためにどのように交差するのかについて検討する。
- ・ **EDUC 5P19 児童文学と教育理論 (Children's Literature and Theory in Education)**

読者の反応やフェミニスト理論を含む, 現代の児童フィクションや詩, 理論的アプローチを学ぶ。
- ・ **EDUC 5P20 教育史・哲学 (History and Philosophy of Education)**

多元社会における教育の目的に関する現在の議論の観点から歴史的かつ現代的理論や教育哲学を批判的に分析し, オルタナティブな教育理論を用いて現代の文化的コンテキストについて検討する。
- ・ **EDUC 5P21 比較国際教育学 (Comparative and International Education)**

社会的なコンテキストにおける国際的かつ文化間の問題を学際的に検討し, 多文化教育, 比較教育, グローバル教育, そして開発教育を含む想定される領域におけるカリキュラムや教授法的戦略に対する含意を検討する。
- ・ **EDUC 5P24 社会的文化的に位置づけられた学習 (Socially and Culturally Situated Learning)**

学習や知識獲得の社会的構造を強調する現代の理論的方法論的視点を検討し, こうした視点が個人的かつグループ・セッティングにおいて学習の内容やプロセスを理解するのにどのように影響しているのかについて考察する。

- ・ **EDUC 5P25 ジェンダー化の教育史 (Gendering Educational Histories)**
男性的・女性的な教授法上の哲学や伝統、言説の相対立する歴史を検討し、基準、目標、その他の権威主義的測定方法の男性的な教授法実践の下に埋め込まれている女性の声を回復させる。
- ・ **EDUC 5V01-5V18 「教育における社会的文化的コンテキスト」特論 (Special Topics in Social and Cultural Contexts in Education)**
教育における社会的文化的コンテキストにおける特定の課題領域を研究することを望む学生向けの演習。
- ・ **EDUC 5V14 2016-17年度 21世紀の識字教育を理解する：新しいリテラシー、デジタル・リテラシー、デザイン・リテラシー (2016-17 Understanding 21st Century Literacy Education: New, Digital, and Design Literacies)**
教室や政策、教授法の中にある過去・現在・将来のリテラシー教育の要素について、批判理論や新しいリテラシー研究、家族リテラシー、マルチリテラシーに向かう多様性、デジタル・リテラシーとデザイン・リテラシーについて検討する。

(2) 「教育・学習・発達」領域専攻

- ・ **EDUC 5P30 発達・学習とカリキュラム (Development, Learning and Curriculum)**
基本的な教育理論を概観し、それを児童生徒や同僚、管理職、コミュニティ・メンバーと接触する前あるいは接触している間に教育者が行う決定のタイプに応用する。そこでは、当該分野における現代的課題に対する批判的かつ個人的な分析に対する多様な視点を強調する。
注意：EDUC 5P30 において最低でも 70% (B) の成績を取れなかった場合は当該プログラムを辞めなければならない。
- ・ **EDUC 5P31 家族・学校と学習 (Families, Schools and Learning)**
家族リテラシー、学問達成、家庭とコミュニティのパートナーシップに関連する調査研究や教育政策、課題を考察し、家族リテラシーや保護者参加に関連するカリキュラム・モデルや調査研究を検討する。
- ・ **EDUC 5P32 学習と知性 (Learning and the Mind)**
長期短期の記憶や注意力、メタ認知を含む学習に影響を及ぼす認知的要因について検討する。明白な指導と足場の原理をレビューし、記憶、学習、戦略的指導に関連するミニ実験に参加する。
- ・ **EDUC 5P33 発達・生涯学習と意味形成 (Development, Life-Long Learning and Meaning-Making)**
生涯心理学やナラティブ・メソドロジーを用いて教育における発達問題を批判的に理解し、理論的実践的アプローチや教育や学習にとっての含意を用いて職業的加齢と発達を検討する。
- ・ **EDUC 5P34 高等教育・成人教育における個人・制度・生涯学習 (Individuals, Institutions and Lifelong Learning in Higher and Adult Education)**
高等教育や成人教育の教育サービスの制度設計や提供、アカウントビリティにおける学習者、教育者、管理職の役割、権利、責任、期待について検討する。その際、構造や機能、評価といった視点が、グローバリゼーションや人口の多様性、現代的関連性を通じた変化の背景に対して考慮される。
- ・ **EDUC 5P35 成人の教育と学習 (Adult Teaching and Learning)**
成人教育と学習の理論的基礎や多様なコンテキストにおける成人学習者の諸特徴、実践のための指導原理について考察する。学習者としての女性、テクノロジー、自己指導型学習、アンドラゴジー、形成的学習を含む現代的トピックを検討し、成人学習活動をデザインし、促進し、評価する。

- ・ **EDUC 5P36 成人教育の批判的視点 (Critical Perspectives on Adult Learning)**
成人教育に関する多様な視点について批判的に検討する。例えば、多様なコンテキストを跨って成人教育に通底する概念枠組みを理解・分析する。その際、個人的実践や関心のあるトピックに対する批判的視点を重視する。
- ・ **EDUC 5P37 子ども・青年の発達の教育的問題 (Developmental and Educational Issues in Children and Adolescents)**
子どもから青年期の発達心理学に関わる問題を検討し、過去・現在・未来の教育経験のための個人的枠組みを開発する。
- ・ **EDUC 5P38 読書障害に関する臨床的診断 (Clinical Diagnosis of Reading Difficulties and Disabilities)**
読書クリニックの患者に対応する実習ベースの授業であり、患者の読書に関する長所・短所を決定するためにフォーマルな読書アセスメントを用い、保護者の受入れ、報告書執筆、保護者への報告に参加する。
- ・ **EDUC 5P39 読書プロセスと読書障害に関する理解 (Understanding the Reading Process and Reading Difficulties)**
読書プロセスと関連する読書能力に関する理論を検討し、児童生徒の読書能力や読書スキルの開発を支援する証拠に基づいた実践に影響を及ぼす要因について考察する。
- ・ **EDUC 5P41 幼児教育 (Early Childhood Education)**
最善の成長を奨励する幼少期のカリキュラムをデザインする意図をもって、子どもの発達の過去と現在のプログラム・モデルの有効性に関する調査を検討する。
- ・ **EDUC 5P42 K-16 カリキュラム・アセスメントにおける革新的実践 (Innovative Practices in Curriculum/Assessment (K-16))**
アカウンタビリティと学習-教育原理に基づく関連性をつなぐ現代的実践を検討し、指導上の戦略へのアセスメントを強調するカリキュラムを考察する。
- ・ **EDUC 5P43 教育に対するインビテーションでホリスティックなアプローチ (Invitational and Holistic Approaches to Education)**
教育、学習、カリキュラム実践へのインビテーションでホリスティックな理論を創造的に応用し、理論と複数の知性、情緒的知性、自己概念、個人間スキル、統合学習、協働学習、創造的問題解決、組織的戦略、民主的実践をつなぐ。
- ・ **EDUC 5P44 カリキュラムのデザイン・実施と評価 (Curriculum Design, Implementation and Evaluation)**
過去と現在のカリキュラムのデザイン・実施と評価モデルを児童生徒、教員、管理職の視点から検討し、プログラムのデザイン・実施と評価の将来の方向性を探究する。
- ・ **EDUC 5P45 教室における学習困難: 診断とプログラミング (Learning Difficulties in the Classroom: Diagnosis and Programming)**
何らかの困難(例外性)を持った児童生徒のために開発された主要な理論や調査研究、指導戦略を検討し、認識や介助に関する現在の視点や論争点、原因となる要因について批判的に分析する。そのうえで、事例研究を通して効果的な介助方法を探究する。
- ・ **EDUC 5P46 教室における行動障害 (Behavioural Disorders in the Classroom)**
子どもや青年の行動障害について分析し、原因論、診断と介助に関する生物学的、心理学的、行動的、及び認知的モデルを検討する。トピックとしては、反抗挑戦性障害、行動障害、多動性不安衰

弱などを含む。理論と実践をつなぐ事例研究分析を行う。

- ・ **EDUC 5P47 教室における感情生活 (Emotional Lives in the Classroom)**
心理教育学的調査、インクルーシブ哲学及び教育実践を通して、児童生徒の感情的経験や自己知識について探究する。
- ・ **EDUC 5P48 カリキュラムの中の科学 (Science in the Curriculum)**
現在のアプローチを含む小学校及び中等学校科学カリキュラムを分析する。その際、マルチメディアや教授活動を重視する。
- ・ **EDUC 5P49 書く力の発達 (Writing Development)**
発達段階と教授法への含意の両方の観点から、書く力の発達に関する現在の理論を考察する。その際オンタリオ・カリキュラムとオンタリオ州言語標準を検討する。受講者は授業を通して書くプロセスの経験に参加するものとする。
- ・ **EDUC 5P51 高等教育における教育と学習 (Teaching and Learning in Higher Education)**
高等教育における教育と学習の理論的基礎やプロセス、原理、実践を批判的に検討する。その際、教育的発達、教育と学習の学識、高等教育における教育学習のデザイン・推進・評価、オンライン及び混合教育、反省的实践、をトピックとするが、その他の関心のあるトピックについても追加的に扱う。
- ・ **EDUC 5P52 高等教育における現代的課題 (Contemporary Issues in Higher Education)**
高等教育における教育的専門的環境の変化との関連における期待や役割、利害関係者の機能を検討する。その際、ICT、遠隔学習、公的アカウントビリティ、成果指標等をトピックとする。
- ・ **EDUC 5P54 思考能力を発達させるためのカリキュラム・デザイン (Designing Curriculum to Develop Thinking Abilities)**
カリキュラムを通じて批判的・反省的思考スキルを発達させるための過去及び現在の概念や理論を分析し、応用する。
- ・ **EDUC 5P55 カリキュラムにおける数学 (Mathematics in the Curriculum)**
現在のアプローチを含めて、主要な課題や傾向を強調しながら、小学校及び中等学校数学カリキュラムを分析する。
- ・ **EDUC 5P56 カリキュラムにおけるテクノロジー (Technology in the Curriculum)**
社会や学校におけるコンピュータ・テクノロジーや情報時代のインパクトを分析し、コンピュータを含む新しいテクノロジーと情報時代のスキルをカリキュラムにどのように統合するかについて検討する。
- ・ **EDUC 5P57 カリキュラムにおける体育 (Physical Education in the Curriculum)**
小学校及び中等学校体育の性質と範囲について検討し、体育カリキュラム理論における課題や調査研究を考察する。その際、児童生徒の発達や指導戦略及び評価についての将来の傾向についても検討する。
- ・ **EDUC 5P59 カリキュラムにおける芸術 (The Arts in the Curriculum)**
創造性のある人物が認知的・社会的・運動感覚的で課題解決型の戦略を使うことで、芸術やドラマ、音楽や書写を教育することの意味ある学びへの貢献について検討する。
- ・ **EDUC 5V30-5V70 教育・学習・発達特論 (Special Topics in Teaching, Learning, and Development)**
教育・学習・発達に関する特定の課題領域を学びたい学生対象の演習。
- ・ **EDUC 5V40 2017-18年度生涯にわたる思考と学習の理論 (2017-18 Theory of Mind and Learning**

Across the Lifespan)

教室における社会的対話のルーティンや言語発達が、逆に複雑な学校ベースの社会的相互作用を支援する新しい形態の認知や感情の新しい方法をどのようにして可能とするのかを探究するための批判理論や最先端の調査研究を検討する。

(3) 「教育経営とリーダーシップ」領域専攻

- ・ **EDUC 5P60 組織の構築 (Constructions of Organization)**
 教育機関に関連する組織理論の分析を行う。本授業は、人々はどう組織を形成しまた組織によってどう形成されるか、そしてそれらの相互のプロセスが経営的・専門的実践にどう影響するのかに重点を置く。EDUC 5P62 を履修するためにはこの授業の単位を修得しなければならない。
 注意：この授業で最低でも 70% (B) の成績を納められなかった場合は、当該プログラムを辞めなければならない。
- ・ **EDUC 5P62 教育における政治, 権力, 政策 (Politics, Power, and Policy in Education)**
 政治過程としての政策形成を分析する。その際、教育政策やその相反しそして共有される利益について交渉するアクターに焦点を当てる。
 前提条件：EDUC 5P60 を習得していること。
 注意：この授業で最低でも 70% (B) の成績を納められなかった場合は、当該プログラムを辞めなければならない。
- ・ **EDUC 5P63 アカウンタビリティと教育 (Accountability and Education)**
 アカウンタビリティについて、その教育実践におけるイデオロギーとガバナンスの影響について、批判的かつ歴史的に検討する。
- ・ **EDUC 5P64 教育上の意思決定における倫理 (Ethics in Educational Decision Making)**
 教育経営実践における裁量権限、倫理枠組みと意思決定モデルのインパクトについて分析し、意思決定の必然性について検討する。
- ・ **EDUC 5P65 管理職のアイデンティティを構築する (Constructing an Administrative Identity)**
 管理職のアイデンティティを明確化し構築する社会心理学的次元に焦点をあて、課題に基づいたアプローチを用いて、教育組織における共通かつ繊細な経営的チャレンジについて検討する。
- ・ **EDUC 5P70 教育経営の社会的コンテキスト (The Social Context of Administration)**
 教育管理職の義務と社会正義政策・実践・言説への入り口に焦点を当て、社会秩序を永続あるいは阻害することにおける教育管理職の役割を検討する。
- ・ **EDUC 5P72 教育改革の効果 (Effecting Change in Education)**
 安定性と持続可能な改善に向けての変化のバランスをとった、詳しい情報に基づく反応を発達させることに焦点を当て、教育機関における義務的で緊急の変化を分析する。
- ・ **EDUC 5P73 教育におけるリーダーシップの課題 (Challenges of Educational Leadership)**
 教育に関わるコンテキストにおけるリーダーシップの目的と想定について検討し、経営的・専門的実践におけるリーダーシップと管理の間の緊張とコネクションについて考察する。
- ・ **EDUC 5P74 教育機関での生活 (Life in Educational Organizations)**
 全ての組織メンバーの成長や発達、実践に影響を与える共有され異議を唱えられている規範や想定に焦点を当て、教育環境における個人間の緊張やダイナミクスについて検討する。
- ・ **EDUC 5P75 教育財政 (Financing Education)**

利益、資源、決定、結果、政治的動機の間にある連関を分析することによって、資源の吸収や配分に関わる理論と実践を通して教育の政治経済を考察する。

- **EDUC 5P76 法とともに（法において）生きる（Living with(in) the Law）**
教育判例法の問題や関心、判決を検討し、法的決定が経営的かつ専門的実践にどのように影響を及ぼすかについて分析する。
- **EDUC 5P77 組織における学習（Learning in Organizations）**
組織的学習や知識システムにおいて議論されている理論や実践を検討し、個人的学習経験の組織的学習における影響について考察する。
- **EDUC 5V80-5V89 教育経営とリーダーシップ特論（Special Topics in Administration and Leadership in Education）**
教育経営とリーダーシップにおける特定の課題領域を研究することを望む学生向けの演習。

(4) 総合コース（General Courses）

- **EDUC 5D91 MRP（Major Research Paper in Educational Studies）**
現代的教育実践における事項や領域に関し、個人的に調査あるいは分析を行う。トピックはMRP執筆の間当該学生を指導する大学院アドバイザーによって承認されなければならない。
必要条件：すべての要求されるコア科目と選択科目を習得し、EDUC 5P92 あるいは学部・大学院教育部門長の許可を得ること。
注意：MRP 研究計画申請書は EDUC 5D91 の履修前に学部・大学院教育部門に提出し承認されなければならない。この科目の修得は、EDUC 5Q91 において以前に取得した成績及び単位と入れ替わることとなる。
- **EDUC 5K95 学位論文（Thesis in Educational Studies）**
学位論文の執筆及び口述諮問は、独立した調査や知識の統合、理解の深さといった学位候補者の能力を示すものである。
必要条件：すべての要求されるコア科目と選択科目を習得し、EDUC 5P92 あるいは学部・大学院教育部門長の許可を得ること。
注意：MRP 研究計画申請書は EDUC 5K95 の履修前に学部・大学院教育部門に提出し承認されなければならない。この科目の修得は、EDUC 5F95 において以前に取得した成績及び単位と入れ替えることとなる。
- **EDUC 5N99 卒業演習（Graduate Seminar in Education）**
自分の学習プログラムを開発し、MRP や学位論文の準備をしている間に行われる、大学院生の課題に焦点を当てた無単位の卒業演習。
注意：この科目はすべてのフルタイム学生の必修科目である。
- **EDUC 5P80 教育的探究の基礎（Foundations of Educational Inquiry）**
知ることを積極的、分析的、創造的、個人的過程として取り扱う、課題に基づいた教育学習モデルを通して教育的探究の哲学的歴史的基础を検討し、教育的探究と、データに基づいた実証的、概念的、個人的探究アプローチを通じた個人的専門的発達を関連付ける。
注意：この科目で最低 70%（B）の成績を取れなかった場合、このプログラムを辞めなければならない。
- **EDUC 5P81 教育調査における個人的語り（Personal Narratives in Educational Research）**

多様な観点から語りの性質や理解を探究する。その際、語りの使用を教育や学習、調査研究、個人的専門的発達の枠組みや道具と考える。

- ・ **EDUC 5P82 教育調査における量的方法 (Quantitative Methods in Educational Research)**
 実験的デザインや相互関連的研究、アンケート調査を含む、教育調査において用いられる量的調査アプローチについて検討する。データを分析し解釈するための統計手続きやスキルを養う。
 必要条件：EDUC 5P92 習得済みか担当教員の許可が必要。
- ・ **EDUC 5P83 教育調査における概念的方法 (Conceptual Methods in Educational Research)**
 現代的な教育理論に基づいている教育概念の広範かつ包括的な用語を学び、特に概念的記述（エッセイ）や基礎的議論といった多様な学習コンテキストに応用する。
- ・ **EDUC 5P84 専門的発達へのアプローチ (Exploring Approaches to Professional Development)**
 専門的発達に向けての理論的経験的アプローチについて検討し、教員の力量形成、学習する組織、教育改革にとって専門的発達が果たす役割について分析する。
- ・ **EDUC 5P85 反省的実践 (Reflective Practice)**
 自己学習の語りや実践的なアクションリサーチを含む、反省的実践と反省的学問探究の考えを検討し、個人的形態の探究は実践における、実践上の、実践のための、そして実践についての省察を含むものであることを学ぶ。
- ・ **EDUC 5P86 データに基づく意思決定 (Data-Based Decision Making)**
 教室や学校、組織の計画に関連する意思決定のためにデータを使用することを促進する統計的技術やデータを掘り起こす戦略について検討する。
- ・ **EDUC 5P87 教育効果評価法 (Evaluating Teaching Effectiveness)**
 全てのレベルでの教育におけるティーチングを評価する方法を検討する。例えば教育の質や教育効果と児童生徒の成績の間の関係などの決定要因として、生徒評価や教員業績評価に関連する事項について学ぶ。
- ・ **EDUC 5P88 質的調査における信念と経験 (Belief and Experience in Qualitative Research)**
 個人的、文化的、宗教的なものを含む直感的経験で始まる質的調査方法を解釈・説明し、経験と個人的信念の間の矛盾を検討する。教育調査がどのようにして他者の生活を改善するために応用されるのかについてより広範な理解を得ることを探究する。
- ・ **EDUC 5P92 教育調査法入門 (An Introduction to Educational Research)**
 教育で用いられる調査方法を、基礎的な調査概念やその応用を強調しながら学際的に分析する。
 注意：この科目は全学生必修である。最低でも70%（B）の成績を取れなかった場合は、当該プログラムをやめなければならない。
- ・ **EDUC 5P94 上級執筆演習 (Advanced Writing Seminar)**
 高等教育における研究上の執筆や出版の方法についての学際的アプローチについて検討し、個人的な関心や著者としての自己意識に関連する執筆・出版サイクルの諸ステージについて考察する。
- ・ **EDUC 5P95 教育調査における質的方法 (Qualitative Methods in Educational Research)**
 ケーススタディやインタビュー戦略、アクションリサーチ・アプローチ、伝記 (biography, ライフストーリー)、エスノグラフィ、歴史的方法などを含む多様な質的調査方法を用いた調査アプローチについて検討し、教育事象への新たな知見を得る方法として、混合のデザイン (combined designs) について議論する。
- ・ **EDUC 5P96 教育インターンシップ (Educational Internship)**

学生が大学院教員による指導を受けつつ、特定の学修目標を達成するためにフィールドメンターの下でアプレントイスを行う、1ターム期間行われるフィールド経験である。

注意：学生は大学院担当教員とフィールドメンターを決め、承諾を得るためのプロポーザルを提出しなければならない。

- **EDUC 5P98 独立学習 (Independent Study in Education)**

指導教員の指導の下行う、個人ベースの学習である。

必要条件：学部・大学院教育部門長による書面による許可が必要。

注意：M.Ed.学位に向けては、独立学習は1回のみカウントされる。5つの半単位の調査に基づいた学位論文コースの学生は、専門領域あるいは一般的な選択科目のいずれかとして EDUC 5P98（独立学習）か EDUC 5P96（教育インターンシップ）のいずれか1つに制限される。

- **EDUC 5P99 教育学入門 (Introduction to Studies in Education)**

教育を1つの学問分野として、また知識を得る複数の方法として学ぶ。現在の教育理論や傾向、教育問題をレビューし、調査能力の基礎を養う。

- **EDUC 5Q97 最終演習 (Culminating Seminar in Educational Studies)**

専門領域に関連する理論と蓄積された知識を実践に統合する最終演習である。

制約：2009-2010年度の後学位要件を満たし、コース・パスウェイに入学した学生に履修を限定する。

必要条件：すべての要求されるコア科目と選択科目、EDUC 5P92 を習得していること。

4. 本稿のまとめと本研究の展望

ここまで、ブロック大学の M.Ed.プログラムについて、その概要を見てきた。そこからは、日本の大学院教育専門職学位授与機関である教職大学院の担当者の一人として見たとき、次の諸点についてその特質が浮かび上がってきた。

第一に、組織運営形態である。ブロック大学の M.Ed.プログラムは教育学部内の各種プログラムの1つとしてみなされており、組織図上も教育学部内の一組織が主に運営を担当することになっていることは上述した。そしてこのことは、教育学部の教員と M.Ed.プログラムの教員の顔ぶれを見てもわかることである。すなわち、M.Ed.プログラムのウェブサイト²⁵では、M.Ed.プログラム担当教員の氏名がリストアップされており、「コア教員」と「協力教員」に分けられている。そして少なくともコア教員として氏名が挙がっている教員はすべて、教育学部の教員としても教育学部のウェブサイト²⁶上にリストアップされている。つまり、学部と大学院、あるいは M.Ed.プログラムと教育学部所管のその他の学位プログラム (Ph.D.など) について、教員を別々に配置するというようなことはしていない。これは、日本において従来教育学部の延長線上の大学院として位置づけられ、担当教員も教育学部とほぼ同様であった「教育学研究科」ではなく、教育学部からは組織的にもスタッフ的にも分離した「独立研究科」であることが強調されつつ導入された (文科省, 2017) 「教職大学院」のあり様とは大きく異なるところである。

第二に、学位取得までの道のりが複数用意されていることである。すなわち、実習ベースの授業やインターンシップなどを除けばほぼ通常の授業のみでプログラムを修了することのできる「コース・パスウェイ」は、その代わりにその他のパスウェイ・オプションよりも習得しなければならない授業数が多く設定されている。つまりより実践に役立つ「知識の獲得」が重要視されているということだろう。他

²⁵ <https://brocku.ca/webcal/current/graduate/educ.html> (2018年5月14日採取)。

²⁶ <https://brocku.ca/education/faculty-and-staff/> (2018年5月27日採取)。

方で、「リサーチ・パスウェイ」においては、コース・パスウェイよりも習得することが要求される授業数は少なく、その意味で知識の獲得そのものに対するウェイトは軽くなっているが、より「研究」を重視し、獲得した知識をより深く掘り下げる、つまり「探究する」ことが求められている。そしてそこでも MRP オプションよりも学位論文オプションの方がより深い探究が要求される反面、習得する授業数は MRP オプションよりも少なく設定されている。つまり、学生は自分の必要性に応じてパスウェイ・オプションを選択できるのであり、どのパスウェイ・オプションを選択しても学生にとっての負荷に不公平感が出ないような制度設計にはなっている。また、日本の教職大学院では、学位論文や MRP は修了要件とはなっておらず、言わばコース・パスウェイだけであり、リサーチ・パスウェイという選択肢はない。2年間の研究成果をまとめた「最終報告書」のようなものの執筆を求める場合もあるだろうが（佐賀大学教職大学院は求めている）、それは修了要件外である（別に実習報告書はあるが、数頁である）。担当教員としては体系的なまとめをしてから現場に戻ってほしい、あるいはストレートマスター²⁷の場合は通常の新採教員以上の体系化された見識をもって教職に就いてほしいという思いはあるものの、学生からすれば余計な労力ということにもなるかもしれない（他方でブロック大学では、例えば EDUC 5N99 のように、単位は認定されないが必修とされている科目もある）。授業ごとに課される課題をつなぎ、その関連性を明確にしながら、実習で得た知見を中心として2年間の研究成果を1つの研究テーマに基づいてまとめる「最終報告書」のようなものを、学位論文あるいはそれに準じる MRP のようなものとして単位化することも検討されていだろう。その場合、学生の負荷を考えると習得すべき授業（コース）の単位数を減少させる必要もあるだろうが、それは決して高度専門職養成という教職大学院の目的に反するものではない。というのも、従来の学位論文の多くが分析対象とするのは他人の行為であるのに対し、教職大学院においては、分析対象は多くの場合現任校あるいは実習校での自らの実践である。つまりアクションリサーチの手法を用いていることが多く、ゆえに最終報告書をまとめる過程において得られる能力は、「反省的実践家」（ショーン、2007；佐久間、2015、166頁）として身に付けなければならない能力と言っても過言ではない。少なくとも、その道を選択することができるくらいの柔軟性が、教職大学院の制度設計には求められるのではないだろうか。

第三に、豊富かつ学生の選択幅の広い、また学生のパスウェイ・オプションに配慮した授業科目設定と、修了までの履修科目の体系性である。すなわち、前節で言及した科目は、「教育における社会的及び文化的コンテクスト」領域で17、「教育・学習・発達」領域で28、「教育経営とリーダーシップ」領域で13、全領域共通の総合コースで19、全部で77の授業が用意されている。コース・パスウェイを除けば、必修科目の他に習得すべき選択科目の数は多くはないが、それでもこれだけ広範囲な分野の事項を学ぶ環境が整っているということは、学生にとっては魅力的であろう。また、特に MRP オプションや学位論文オプションにおいては、多くの学生は実際の調査を通してデータ収集するものと思われるが、そのための調査方法論に関わる授業が設けられている点も注目すべきである。しかも、そうしたデータ収集はいずれの領域に属していても必要となるため、方法論の授業はすべて全領域共通の総合コースにおいて設定されている。また、MRP オプション・学位論文オプションの学生には、それぞれのオプション特有の学位要件に沿った執筆指導を行う授業が設けられている。そしてこのように学生にどの授業を履修するかについて幅広い選択肢を提供し、また学生が学位を取得するまでに必要な能力を体系的に教授する授業構成を可能としているのが、第一の視点で言及した組織構造である。すなわち、M.Ed.プログラム

²⁷ 日本の教職大学院特有の和製英語であると思われる（大学院進学が個々人のライフステージによって異なる欧米では、管見の限り見かけない用語であるため）が、要するに学部を卒業し教員免許を取得したうえでストレートに教職大学院に進学してきた修士（マスター）課程の学生を意味する。

が教育学部の一部を構成するという形になっており、そのため必然的に教育学部の教員は M.Ed.プログラムの教員をも兼ねるということになり、その分教員集団がより幅広い専門分野から構成されるということになる。翻って日本の教職大学院は、上述の通りそもそもは教育学部からは独立した存在として制度設計がなされた。しかし 2017 年 8 月に出された『教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて一国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議報告書一』（文部科学省、2017）では、教職大学院と教育学部が密接に連携をとり、協力して教育を進めていくことを提言している。この提言自体は、教職大学院が制度化されてから約 10 年しか経っていないことに鑑みると、特に教職大学院設置が比較的遅かった大学からは「話が違う」という戸惑いの声が上がっても無理はない。しかも、有識者会議報告書後の文科省のスタンスとしては、「学部との一体化」を今後の大きな方針の 1 つに掲げている（柳澤、2018）。これはもう「朝令暮改」の誹りを免れるものではないだろう。しかし、誤りを認め、改めるのに早過ぎることはない。現実的に考えたとき、教職大学院については、教育学部からの独立性を強調するよりも教育学部との一体性を重視する方が、より充実したスタッフの下プログラム運営が可能となり、それはより体系的で充実した教育内容を学生に提供することにつながる、ということはいえよう。²⁸「教職大学院の独立性を保持したままで、教育学部との連携を深めることは十分可能である。」という反論があるかもしれない。しかし、従来の大学院教育学研究科であれば教育学部と一体的に組織運営がなされていたため、双方の授業を担当することに何ら違和感はないが、教職大学院の独立性が強調されると、いくら連携・協力が重要であるとしても、教育学部の教員が教職大学院の授業を、教職大学院の教員が教育学部の授業を、それぞれ担当するとなったとき、本来持つ必要のない授業をやらされているという感覚はぬぐい切れないだろう。日本の教職大学院に関しては、カリキュラムとスタッフの関連性に十分留意しつつ、組織構造の再考が求められよう。

本稿は、2018 年 9 月にブロック大学で実施する予定の現地調査の第一フェーズとして、ブロック大学 M.Ed.プログラムの制度概要を検討し、日本の教職大学院との比較の中で、データ収集の視点の一部を設定することを目的として、主に 2018 年度前半期に執筆された。但し、同年 9 月に実施した現地調査から得られた知見に関しても、制度設計そのものに関連する場合に限って言及した。今後の展望としては、本稿及びその他の先行研究からデータ収集・分析のための視点を確定し、調査結果を分析することである。例えば、タッカー&フシェル（Tucker & Fushell, 2013）は、カナダのニューファンドランド&ラブラドル（Newfoundland & Labrador）州の M.Ed.の学位を有する教員を対象に調査を行っている。そこでは、M.Ed.プログラムに進学した動機に関する質問（複数回答可）に対し、「給与のアップ」が 81.9%、「より良い教員になるため」が 74.5%、「学校や教育委員会でリーダーとしてのポジションに就くため」が 41.2%と回答の上位を占めたことや、M.Ed.プログラムが教員としての力量形成に役立ったと回答した割合が 88.9%に上ること、また 70%が何らかのリーダーシップ・ポジションに就きたいという意味を持っていること等を調査結果として提示している。このように、カナダでは多くの教員が主体的に M.Ed.や Ed.D.（Doctor of Education, 教育学博士）といった教育専門職向け大学院学位プログラムに進学しているが、その動機付けはいったい何なのか、それを可能とする条件とは何なのかを明らかにすることは、今後日本の教職大学院を現職教員にとってより魅力あるものとしていくために不可欠な視点である。今後はこうした先行研究をまとめたうえで、現地調査で得られたデータの分析を行う予定である。²⁹

²⁸ 教職大学院同様に専門職大学院として設置された法科大学院（ロー・スクール）と従来の法学部との関係についても、同様の政策転換が中央教育審議会大学分科会法科大学院等特別委員会（2018）により提言されている。

²⁹ 現地調査の結果は、本誌掲載の別の拙稿（平田、2019）において検討することとする。

【参考文献】

- ・ 中央教育審議会大学分科会法科大学院等特別委員会（2018）『法科大学院等の抜本的な教育の改善・充実に向けた基本的な方向性』
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/041/siryo/_icsFiles/afieldfile/2018/05/16/1404919_05_1.pdf（2018年5月30日採取）。
- ・ 藤本夕衣（2017）『反「大学改革」論—若手からの問題提起—』ナカニシヤ出版。
- ・ 平田淳（2017）『カナダにおける「開かれた教育行政」及び「開かれた学校づくり」に関する調査研究』科学研究費補助金研究成果報告書。
- ・ 平田淳（2019）「カナダ・ブロック大学大学院における M.Ed.プログラムの実態の諸側面」『佐賀大学大学院学校教育学研究科研究紀要』第3巻，69—91頁。
- ・ 平田淳，成島美弥，坂本光代（2003）『「子どもを第一に考えよう』とオンタリオ州の新保守主義的教育改革』小林順子他編『21世紀にはばたくカナダの教育』カナダの教育1，東信堂，64—87頁。
- ・ 文部科学省（2017）『教員需要の減少期における教員養成・研修機能の強化に向けて一国立教員養成大学・学部，大学院，附属学校の改革に関する有識者会議報告書—』文部科学省，
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/077/gaiyou/_icsFiles/afieldfile/2017/08/30/1394996_001_1.pdf（2018年5月28日採取）。
- ・ Ontario College of Teachers (n.d.). *Registration guide: Requirements for becoming a teacher of general education in Ontario including multi-session programs*. Retrieved January 21, 2019, from the World Wide Web: https://www.oct.ca/-/media/PDF/Requirements%20General%20Education%20Teacher/EN/general_education_teacher_e.pdf.
- ・ 佐久間亜紀（2015）「教師の専門的力とは」油布佐和子編『現代日本の教師—仕事と役割—』放送大学教育振興会，162—175頁。
- ・ ショーン，D.（柳澤昌一・三輪健二監訳）（2007）『省察的実践とは何か』鳳書房。
- ・ Tucker, J. & Fushell, M. (2013). Graduate programs in education: Impact on teachers' careers. *Canadian Journal of Educational Administration and Policy*, 148, 1-26, Retrieved June 5, 2018, from the World Wide Web: <https://journalhosting.ucalgary.ca/index.php/cjeap/article/view/42855>.
- ・ 柳澤好治（2018）『これからの時代に求められる教職大学院のあり方』平成30年度日本教職大学院協会研究大会基調講演資料。
- ・ 山口裕之（2017）『「大学改革」という病』明石書店。

【附記】

- ・ 本稿の大部分は，2018年5月末日までに主にブロック大学ウェブサイト（<https://brocku.ca/>）から得られた情報に基づいて，同年5月から6月にかけて執筆された。但し，同年9月に実施した現地調査で得られた情報や，現地調査後に調査協力者に対して行ったEメールによる質問への回答から判明したウェブサイト記載事項の変更内容に基づいて，5月末日までに得られた情報で執筆した内容を一部修正した箇所もある。教育学部改組の影響もあり，本稿で参照したウェブサイトの内容が本稿脱稿後に変更されている場合もあることを了承されたい。
- ・ 本稿は，科学研究費補助金（基盤研究(C)（一般） 課題番号 18K02283）「カナダの大学院における教育専門職向け学位プログラムの教育効果に関する調査研究」の研究成果の一部である。

（2019年2月8日 受理）